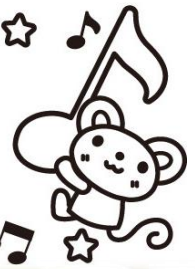




すみれぐみだより

No. 25
鈴鹿市立玉垣幼稚園
2022.2.22



前回のクラス便りでお伝えしました、子どもたちが栽培しているヒヤシンスの花が、ついに開花しました！
「先生、花、咲いとる！」教えてくれたAくんの言葉に、「本当や〜」「咲いとる！」と、子どもたちが集まりました。「あっ、ヒヤシンスの花の匂いがするよ」と言うと、「あっ、ジュースの匂いがする」「桜の匂いがした！」「違う色の花が咲いたら、違う匂いがするのかな〜？」等々…。子どもたちの感性は、素敵ですね。



子どもたちの姿から ~コマ回し、あやとり、段ボール製作~

【コマ回し】

今、子どもたちの間で、再び、コマがブームとなっています。今までは、友だちと一緒にコマを回して、「回った〜！」と、喜ぶ姿が多くありました。そして、最近は『友だちよりも、長く回したい！』『机の上で回したい！』『回したコマを手に乗せたい！』等、自分の中で、更なる目標を決め、挑戦する姿が見られるようになってきました。

子どもたちの姿を見ていると、『コマが回せるようになったからもういいや！』と、投げだしてしまう子は全くおらず、挑戦しようとする意欲に満ちた姿の多いことに成長の嬉しさを感じます。中には、まだ、コマが回らない子もいます。でも、その子たちも、まずは、紐を巻くところから！『昨日よりもきれいに巻けた』『先生に手伝ってもらわなくても、一人で巻けた！』等、一人一人が、自分の中で、目標を決め、目標を達成したら、次の目標をもち頑張っています。



【あやとり】

「ほうきできた！」「四段ばしごが作りたい！」「これ、どうやってするの？」。あやとりの本を見ながら、こんなのが作ってみたい！と、作り方を確認する姿があります。初めは、本を見ながら、または、友だちや教師に聞きながら作ります。そして、何日もかけて、何度も何度も繰り返し、自分一人ですることができるになると、「でき



た～！」。この「できた～！」という達成感は、何とも言えない喜びとして、

子どもの心に残ります。そして、『次は、〇〇を作りたい！』という次への意欲にもつながり、目標もできます。

また、本に書いてあるものばかりではなく、何となく、あやとりを手にして、クネクネ…偶然できた形が『あっ、リボンみたい』『これ、何だ？何かに見えるけど…』と、想像力を働かせ、オリジナル

のあやとりを楽しむ姿もありますよ。子どもたちの感性が輝いています！



【段ボール製作】



きっかけは、「フライパンじいさんが作りたい！」というAくんの言葉でした。初めは、廃材から、大きな銀色のトレーを持ってきて、そこに、持ち手を付けていました。その後、フライパンじいさんの絵本を広げ、段ボールでフライパンやポット、フライ返しなど、絵本に出てくるものを友だちと作り始めました。そして、作ったフライパンで料理をして遊んでいました。

フライパンじいさんの遊びが終わる頃、大型積み木で遊園地を作って遊んでいた子どもたち。その時に、遊園地のアトラクションの一つとして、「そうや！船に乗っていきやつ作ろ！クジラがおってさ～、ボール投げてやつつける！」「クジラ作ろう！」「先生、段ボールない？」段ボールでのクジラ作りが始まりました。作っているうちに、クジラがジンバイザメに…。その日の午後から、ジンバイザメに新聞で作ったボールを投げて遊んでいました。

その次の日、「今度は、マンボウ作ろう！マンボウが載ってる本あるかな？」。あちこち探しましたが、マンボウが載っている本はありません。すると、子どもたちは、折り紙の本を探し始めました。『えっ？どうして折り紙？折り紙で作るの？』と思い、「折り紙の本に載ってるの？」と聞くと、「マンボウの折り紙があったら、絵が載ってるかもしれやんもん！」なるほど…そういうこと！よく考えてるな～と思いました。結局、マンボウは見つからず、携帯でサッと調べて見せると、「分かった！」と、マンボウを作り始めます。

その後も、魚のカレンダーを見つけ『次は〇〇作ろう！』『●●も作ろう！』と、次々に魚が完成し、最後は、潜水艦も作ってしまいました！そして、魚たちには、名前もつけていました。自分たちが、硬い段ボールを一生懸命切って、頑張った魚だからこそ、愛着があるんだろうな…。大きな段ボール箱を海に見立てて、魚が泳いでいます。ジンバイザメのエサもちゃんとあるですよ！

ここでも、次はこれ、次はこれ！！と、作る物を考え、目標をもって、作っていく姿がありました。

今、子どもたちの間で見られる『遊び』には、どれも『目標を持ち続ける姿』『目標に向かって頑張る姿』が見られるな…と思います。この『目標を持ち続ける』『目標に向かって頑張る』というものは、非認知能力の一つとも言われています。非認知能力とは、「生きる力」でもあり、数値ではかれない能力のことをさします。非認知能力が高い人は、大人になってからの幸福度や経済的な安定度が高い傾向にあるともいわれているそうです。そして、この非認知能力は、就学前の乳幼児期が最も獲得しやすいともいわれています。

子どもたちが遊びを通して、非認知能力を獲得していけるよう、残りの日々も、過ごしていきたいと思います。



不安になりました… ～イカゲーム～

とても素敵な遊びをしている一方で、このような遊びも…。クラス全体でする活動の中で、遊びの振り返りをしています。『こんなことをして遊んだよ』『こんなことがあったんだ』『こんなことに気付いたよ』『困ったことがあったんだ…』等、子どもたちが遊びの時間のことを話します。その中で、ある子が「イカゲームをしました」と発表してくれました。

ついに来たか…と思い、子どもたちに質問してみました。「イカゲームってどんな遊びなの？」と聞くと、「番号が書いてある名札をつけて、だるまさんが転んだみたいにして、動いたら銃で撃たれて水がかかって始めに戻るの」。すると、他の子が「でも、YouTubeの本物のやつは、動いたら、銃で撃たれて殺されるの」と。「えっ！殺されるって…そんな怖い、みんな知ってるの？」と聞くと、クラスの3分の2くらいの子が、見たことがあると言っていました。

子どもたちの遊びのルールでは『撃たれたら水がかかって、始めに戻る』というもののなので、“撃たれたら”という部分が気になりますが、戦いごっこなどでもあることなので、まあまあ…と感じましたが、それよりも『殺される』という言葉が平気で言葉にする姿、そして、クラスの3分の2くらいの子が見たことがあると答えたことに、とても衝撃を受け、とても不安になりました。

『この子たちは、どういう気持ちで見ているんだろう…』

『人の命というものをどのように思っているんだろう…』

『“殺す”とは、どのような言葉が分かって言っているのだろうか…』

スマートフォンやタブレットが普及して、どのような情報でも、すぐに得られる時代になったからこそこの問題でもあるのだろうな…と感じました。

私は、イカゲームを見たことがありません。なので、子どもたちの話している内容と、私が感じているものとは、ズレがあるかもしれません。いくらドラマ(?)、ゲーム(?)だとはいえ、人の命というものを『ゲームで動いたら撃つ』というように、簡単に扱うべきものではないと考えています。また、“殺す”という言葉も、簡単に使うべきものではないと考えます。なので、子どもたちの話を聞いたあと、「そうなんだ…でも、先生は、そういうの、大っ嫌い」と言いました。

各ご家庭で、色々な考え方があると思います。なので、イカゲームを子どもに見せないでくださいとは言いません。ただ、今後の子どもたちの遊び方によっては、話し合いをしていく必要があるだろうなと思っています。子どもたちの遊び方に注意を払い、様子を見ていきたいと思っています。

生活発表会に向けて… ～劇が決まりました！～

前回のクラス便りで、『十二支の話』と『さるかに合戦』の2つに絞られたというところまでお話をさせていただきましたね。

その後、十二支をやりたい子も、さるかにをやりたい子も、互いにどちらも譲れない様子でした。そこで…

① それぞれの劇の面白い場面を出し合おう！

『十二支』→サルとイヌがけんかをして、トリが止めるところ。

→ネコがネズミを追いかけるところ。

→ウシの背中にネズミが乗るところ。

→ネズミが嘘をつくところ。



…などなど

『さるかに』→サルをみんなで相談するところ。

→みんなで順番にサルをこらしめるところ。

→サルが最後に「ごめんなさい」と謝るところ。



…などなど

② それぞれの劇、どうしてやりたくないの？

『十二支がやりたい子』→さるかにの劇で、ハチがサルの鼻を針で刺す時に、もし滑って、目とかに刺さったら危ない。絵本だから大丈夫だけど…



それに対して、さるかにをしたい子たちは…鼻にしないで、体にしたらいいやん！

『さるかにがやりたい子』→十二支の話は、サルとイヌがけんかして、トリが止めるところは面白いけど、他に面白いところはない…



それに対して、十二支をしたい子たちは…他にもいっぱいあるやん！

③ ジャンケンで決める～？

あまりにも決まらないので、誰かが…『もう、ジャンケンで決めたらいいやん！』

教師:「みんながそれでいいっていうなら、ジャンケンでもいいんだよ。ジャンケンする？」

子どもたち:「いいよ～」 「え～、いやや～」

Aちゃん:「ジャンケンで決めて、もし負けて、いやいやな気持ちのままやるのは嫌だし…」

Bくん:「嫌な気持ちのままは嫌や。ジャンケン嫌」

教師:「そうだよね。嫌な気持ちのままでは、みんなが楽しい劇はできないよね」

④ さて、どうしよう…

教師:「そうだ！2つの話を合体させて、すみれ組さんオリジナルの劇を作る？」

子どもたち:「いいね～！」

そして、それぞれの劇で、『面白い！ここだけは入れたい！』という部分を入れて、2つの劇を合体させることになりました。

⑤ そういえば…タイトルは!?

子どもたちと相談して『十二支合戦』となりました。



そして、できあがったオリジナルのストーリー。そのストーリーに合わせて、自分の好きな役で、何回か劇をしました。

ある日の劇で…

教師:「あれ、今日は、ウシ役がおらんな～」

子どもたち:「先生やってよ！」

教師:「先生？よしっ、分かった！」

話は進み、ウシが御殿へ向けて、夜のうちに出発することに…それを見ていたネズミたち。教師の後ろにネズミ役の子どもたちが、そろ～り そろ～りと近づきました。そして、しばらく歩いていましたが、何だか声が聞こえる！

ウシ:「何だか、声が聞こえるな～…」

と、後ろを振り向くと…ネズミ役の子どもたちは、パツとしゃがんだり、教師の後ろに回りこんだり…（おっ、面白い！）

ウシ:「あれ～、おかしいな～…」

また、歩きだします。

ウシ:「やっぱり声が聞こえるな～…」

と、また後ろを振り向くと…また、ネズミ役の子どもたちは、しゃがんだり、教師の後ろに回りこんだり…



子どもたちは、ストーリーが頭の中に入っているので、ストーリーに合わせて、自由に表現を楽しんでいます。台詞も決まっていますが、自分たちで考えて話す場面もありました。

そして、先週末、劇の配役も決定し、発表会に向けて、本格的に劇活動がスタートしていきます。配役が決定した後…

教師:「発表会まで、この役で、みんなで力を合わせて、楽しく、劇をしていけるかな？」

子どもたち:「はい！」

教師:「劇では、どの役も、みんな、一人一人、とっても大切。そして、みんなが力を合わせないと、楽しい劇はできないの。みんなで力を合わせて心を合わせて、頑張るぞ～！！」

子どもたち:「エイエイオー！！」

これから約3週間、子どもたちと共に劇を作り上げていきたいと思っています。当日の子どもたちの姿も大切ですが、当日に至るまでの過程での子どもたちの姿も大切だと思っています。子どもたちが、発表会までの3週間、毎日、楽しみながら活動できるように取り組んでいきたいと思っています。

